

乳がんとは

日本人女性の乳がん罹患率は近年上昇しており、女性が患うがんの中で最も発生率が高いのもこの乳がんです。中でも、下記に該当する方は特に注意が必要です。

- ・年齢40歳以上の方
- ・肥満気味の方
- ・乳がん家族歴のある方
- ・高齢出産経験者（初産が30歳以上）
- ・出産経験のない方
- ・初潮年齢の低い方（12歳以下）
- ・閉経年齢の高い方（55歳以上）

乳がんになる原因は、食生活の欧米化・ストレス・喫煙などの生活習慣があげられ、現在も増加の傾向にあります。その他のがんと同様に絶対的な予防方法はありません。

乳がんのほとんどは「しこり」として自分で発見できるがんです。早期発見・早期治療のためにも正しい知識をもってセルフチェックを行い、定期的に検診を受けることをお勧めします。

マンモグラフィ検査（乳房X線検査）

マンモグラフィは、乳房専用のエックス線装置を用いて、乳房内の病気を調べます。乳房を上下・左右に挟み、できるだけ薄く引き延ばして検査しますので、多少の痛みを伴うことがあります。触診では分からない、小さな石灰化を有し腫瘍を形成しない乳がんの発見を得意とします。この検査は、乳腺の密度が濃くない50歳以上で早期発見の貢献度が高いです。若い乳房では、乳腺が発達していて濃度が高いため、乳房全体が白っぽく写り、しこりが隠れて発見しにくくなります。

乳房石灰化

石灰化は、何らかの原因によりカルシウムが乳腺内に沈着した状態です。石灰化の大半は良性の病変（線維腺腫、乳腺症など）に伴って起こりますが、乳がんに伴うこともあります。石灰化の形、大きさや分布の状態などから、がんに伴う石灰化かどうかを判定します。

超音波（エコー）検査

超音波を用いて、乳腺内の病気の有無を調べます。超音波を用いるため、体に負担がかからない検査です。乳腺の状態やしこり（腫瘍）の有無・良性か悪性か、リンパ節が腫れていないかなどを調べます。乳腺炎、乳腺のう胞症、乳腺腫瘍などの乳房の病変を捉えることができます。この検査は、若年者（20代～30代）にも有用です。

乳管拡張

全体的に乳管が拡張する理由としては月経周期のホルモン変化によるものや妊娠・授乳に伴うものがあります。これは病的な意味はありませんので心配ありません。

乳腺のう胞

乳腺のう胞は、太くなり袋状になった乳管に液体の分泌物がたまった状態です。30～50歳代の女性に多く見られ、複数できることもあります。閉経を過ぎると、のう胞が徐々に消えてなくなることもあります。基本的には良性の変化ですので治療する必要はありませんが、内部に充実性の所見が見られる場合には精密検査が必要となります。1年に1回は検査することをお勧めします。

乳腺線維腺腫

線維腺腫は、20～40歳代の女性に好発する良性のしこり（腫瘍）です。ほとんどが2～3cmぐらいまでの大きさで、触ると良く動き、小さいものであれば治療の必要はありませんので、定期的に経過観察をしてください。大きいものであれば、精密検査をお勧めします。